

街路樹剪定士 ～「切るも剪定、切らぬも剪定」～

美しい街づくりにとって、都市の緑の骨格を形成する街路樹は、きわめて大切な役割を持っています。一般社団法人日本造園建設業協会（日造協）では、街路樹剪定の技術者を育成するために「街路樹剪定士」認定制度を平成11年に創設し、以来26年が経過しました。令和6年度末までに全国で15,561名、うち千葉県では979名の街路樹剪定士が県内各地域で活躍しており、「街路樹剪定士」を入札条件や特記仕様書等に記載する自治体もかなり増えてきました。

日造協千葉県支部では毎年、学科及び実技の研修会・認定試験を千葉市の幕張で実施しており、今年度は昨年11月11日・12日の2日間で開催され、再受験を含む41名が挑戦しました。初日の研修会では、街路樹に関する基本的事項・剪定技術・管理目標の設定とケーススタディ・病虫害・植栽基盤・安全衛生管理について、カリキュラムに則った日造協街路樹剪定士指導員の講義に耳を傾け、受験者は最後に学科試験を実施しました。2日目の認定試験では、プラタナスとイチヨウについて1人1本ずつの街路樹が与えられ、それぞれの樹種に適した目標樹形を美しく整えるとともに、日造協が求める剪定方法と造園ワークポジショニングの作業姿勢で実技試験を実施しました。また、県内各自治体の街路樹担当様からは、初日の研修会では30名の受講、2日目の認定試験では19名の見学と大変多くの方が研修会・認定試験に参加していただき、近年の街路樹剪定士の必要性を感じました。



見本剪定樹木ケーススタディ（イチヨウ）

「街路樹剪定士」に必要な剪定技術として、日造協では「効率的な切返し剪定」を推奨しています。切返し剪定で大切なのは、枝替えと枝抜きを頂部優勢でバランスよく美しく仕上げることに尽きます。実技試験では、街路樹ごとに与えられた試験時間内で、目標樹形のプロポーション（美しさ）や適正な剪定位置（切返し剪定）はもちろん、頂部優勢をコントロールした剪定部位（枝抜き剪定）・丁寧な芽の残し（切詰め剪定）・

不要枝と必要枝の選別等の技術面と、墜落制止用器具等の装備・枝の降ろし方等の安全面を総合して判定します。



街路樹剪定士認定試験

「街路樹剪定士」認定制度は、街路樹の剪定に携わる造園技術者ひとりひとりの自己研鑽とともに、現場で優れた技術・技能を発揮していくことを目的としています。制度が出来る前は、本来の樹形や剪定方法を全く無視した無残な街路樹が全国各地域に存在していました。制度創設後は、このような課題も年々減少し、長い年月をかけて都市の統一美を行政・業界が共有することが大切になりました。資格取得後は街路樹剪定のスペシャリストとして技術・技能の研鑽に努め、単に木を切るということではなく剪定により形成される街路樹の魅力を広め、地域の街路樹は我々が守り、育て、美しい景観を維持する意気込みで活躍して欲しいと思います。

千葉県内の街路樹本数は令和3年現在、24万本を下回りピーク時より減少傾向です。維持管理手法・人気樹種への更新・植栽基盤の再整備の提案など、街路樹空間に合わせた持続可能なマネジメントの相談については、日造協千葉県支部にて対応をしております。



街路樹剪定士による剪定（一昨年度）とそうでない剪定（昨年度）

（街路樹剪定士指導員 松戸克浩）

植栽基盤診断士

～植栽基盤のスペシャリストとして、技術提案を～

植栽樹木の枯損や生育不良の原因で最も多いと推測されるのが、固い地盤や排水不良などによるものです。一般社団法人日本造園建設業協会（日造協）では、植栽基盤に関わる総合的な知識と卓越した技術提案力を持つスペシャリストとして「植栽基盤診断士」認定制度を平成15年に創設し、以来21年が経過しました。令和6年度末までに全国で1,846名、うち千葉県では78名の植栽基盤診断士（士補は全国で2,273名、うち千葉県で94名）が認定されております。国土交通省や都市再生機構をはじめ、県内の各自治体等で入札条件や特記仕様書等に記載されるようになり、県内各地域で活躍する現場が増加してきました。

植栽地の改良提案をするためには、現場調査・土壌の物理性・化学性の診断・排水性の確保・植物の性質や植栽工法・経済性の比較など、施工者側の植栽基盤に関する高度な知識と技術が要求されるため、質の高い技術者を育てていくことが必要です。

そこで日造協千葉県支部では、植栽基盤診断に必要な5項目（物理性4項目、化学性1項目）について千葉県版の標準見積書を準備し、千葉県下の行政への要望活動のひとつとして対応をしております。植栽基盤診断士の皆様には、これら5項目の判定結果をもとに総合的な技術提案をお願いしております。

物理性4項目については、

▽土壌断面

（長谷川式大型検土杖の取り扱い、測定手順、記録）



土壌断面

▽土性・土色判定

（指頭法・標準土色帖の土色判定と判定結果の記述）



土性・土色判定

▽土壌硬度

（長谷川式土壌貫入計の取り扱い、測定手順、測定結果のグラフ化と評価）



土壌硬度

▽透水性

（長谷川式簡易現場透水試験器の取り扱い、測定手順、最終減水能の算出と評価）を標準とし、



透水性

化学性1項目については、

▽PH・EC測定

（測定準備、測定液の取り扱い、測定器の校正作業、測定の手順と読み取り、判定）を標準としています。



PH・EC測定

「植栽基盤診断士」は、植栽基盤・土壌・植物・植栽に関する知識と経験があり、土壌調査・診断結果をもとにした処方能力を総合的に備え、植栽基盤整備“植物が良好に育つ土壌環境”を整えるスペシャリストです。

「植栽基盤診断士」に求められる能力として、下記の事項があげられます。

- ① 植栽予定地の現況調査・診断・植栽基盤整備に必要な土壌の物理性、化学性の知識
- ② 植栽されるさまざまな植物の総合的な知識
- ③ 植栽や移植に関する多様な工法、経済性の知識と技術
- ④ 植栽地盤の調査・診断技術と、植栽基盤整備の視点に立って下す処方能力
- ⑤ 発注者などに対し、施工性、経済性を考慮して、明確なデータを示しながら行う技術提案力と説明力
（植栽基盤診断士講師 松戸克浩）